有数の健康長寿分野関係機関の集積地である。大府市のモデル事業「脳とからだの健康チェック」では、大府市在住の65歳以上を対象に、運動機能、認知機能検査、口腔機能検査など「健康で長生き」を実現するために重要となる検査を実施している。

（渡邊　正）

豊島区役所にて

産業建設委員会

◆視察月日　10月27日～29日
◆視 察 市　岡山県津山市
　　真庭市

◆視察項目
・津山市　鉄道近代化遺産を用いての観光振興策
・真庭市　木質資源循環型地域社会の創造

鉄道近代化遺産を用いた観光振興策

津山市では平成17年に「新津山市観光ビジョン2006」を制定し地域に眠る資源の掘り起こしに取り組んだ。そこで提言されたのが市内に残る古い駅舎等の鉄道遺産の活用であったとの説明があった。その鉄道遺産とは、かつて東能代の駅構内にもあった扇形機関車庫と転車台であった。目前の景色に歓声が上がった。それは懐かしさと、これを観光につなげていることへの驚きでもあった。とかく古く価値のあるものでも維持費の問題から取り壊されがちであるが、時は巡り古いものが見直される風潮にある昨今は、それが観光につながるのだと再認識した視察であり、この先、当市が進むうえでも参考になると思う。

木質資源循環型地域社会の創造

真庭市はバイオマス構想の先進地であり森林資源が豊富で能代市と環境がよく似ており、学ぶことが多いと期待しての視察であった。

構想の始まりは地元若手経営者達が「21世紀の真庭塾」を立ち上げ、未来について意見を出し合った。そこに行政や産学連携の仕組みが協働の形で参画し体制ができた。特徴的なのは民間事業者の活動が主体であったことだと話す。視察先は銘建工業㈱で工場は多くが機械化されており、過程で排出される木くず等は木質ペレットや発電に自動的に振り分けされ捨てる物はゼロ、しかも自社で使う電力はほぼ足りるとのことであった。また、市庁舎では冷暖房はバイオマスのボイラーを採用、緊急時のトイレの水は雨水を蓄えて利用するなど目指す資源循環型社会へ着実に歩む姿が伺えた。

（落合　範）

庁舎整備特別委員会

◆視察月日　11月5日～7日
◆視 察 市　東京都立川市
　　静岡県熱海市

◆視察項目
・新庁舎の市民窓口等の配置
・議事堂の設備等

真庭市役所前にて

新立川市役所は、昭和60年に「庁舎建設基金条例」を制定し、平成15年財務省と土地の売買契約を締結、「立川市新庁舎建設市民100人委員会」と「現庁舎敷地利用計画市民案」を策定し、平成22年3月に竣工、5月開庁となった。地下1階（RC造）、地上4階建て（PC造+鉄骨造）で用地代が19・7億円、本体工事73・1億円であった。

市民の声を取り入れ太陽光発電、雨水利用、冷温水発生機や氷蓄熱ヒートポンプ、地中熱、コジェネレーションなども配置されていた。建設してからの課題としては、低コスト化に努めたことから天井が低くダクトや配線カバーなどが丸見えで何かの工場ではないのかといった意見が出された。また、省エネルギーに努めていたが、それぞれが試験的で実質的な効果が見出せないでいた。エレベーターが広く車椅子の方がゆっくり乗れるスペースが印象的であった。

熱海市は、市域内はほとんどが丘陵であり、別荘地や住宅なども高台に立つ所が多く、道路も勾配の急な坂が多い。平成24年3月12日熱海市庁舎等建設基本構想及び熱海市庁舎等建設審議会が設置され、庁舎建設について分庁化の全体計画ができ上がり、同年8月3日第3庁舎（旧文化会館）が完成し、第1庁舎は平成26年5月7日より業務を開始している。

勾配が急で敷地も狭く分庁もやむを得ないと感じた。建物は近代的で、1階フロアは真ん中の通路を挟んで、住民票、戸籍、税務、福祉等が設置され、通路から市職員の姿が見通すことができた。隣には新築になった消防署があり、2階の通路で連結されていた。

（伊藤）

熱海市役所にて